

埼玉県電気工事工業組合大宮支部 専務理事



浦野佳子さん  
*urano yoshiko*

## 一人でも多くの合格を願って

県内に18の支部を擁する埼玉県電気工事工業組合（本部・さいたま市、埼玉電工）は昭和40年の設立以来、組合員の教育事業等を通じて業界の安定化、近代化に取り組んできた。また、市内の工業高校の生徒を対象に、太陽光発電設置の講習会など若手の育成でも注目を集めている。埼玉電工大宮支部の浦野佳子専務理事は平成5年に採用され、現在まで事務局で活躍中だ。

「実は採用される前の仕事はまったく畑違いで、会計事務も未経験でした。でも、採用担当の方が『むしろそういう方のほうがいいのです。仕事をしながら覚えてください』とおっしゃったのです。当初はわからないことばかりでしたが、いろいろ教えていただいて、ここまで来ることができました」と微笑む。

### ●周囲の支えで合格

浦野専務理事が組合検定試験に合格したのは平成12年。その前に「建設業経理事務士」の試験にも合格している。

「まずは経理を学ぼうと思ったのです。受験勉強のために通い始めた専門学校の先生が、とてもいいに教えてくださいました。わからないことをはっきりと『わからない』と言ったことがよかったようです。おかげさまで経理のことが少しずつ理解できるようになり、組合検

定の試験にも役立ちましたね」と振り返る。

主婦としての仕事も手は抜けない。

「受験勉強中も食事の支度や洗濯、掃除などの家事はいつも通りです。夕食後の夜9時以降を私の勉強時間にさせてもらいました。疲れて眠くなる時もありましたが、『合格しなくては意味がない』と思ってがんばりました。受験勉強でわからないことは、県の中央会によく電話をかけて聞いていました。合格の秘訣は、やはり過去問題をしっかりマスターすることでしょうか。家族を含めていろいろな人の支えも合格につながったと思います」

### ●業務に自信が持てる

組合士となることで得たものは多い。

「組合運営に関する法律の知識を身につければ、運営に自信を持って取り組むことができます。総会を滞りなく運営できた時には、特に達成感がありますね。」

研修会や交流会などで異業種・異世代の組合士の仲間と知り合えるのも楽しみの一つだ。

「埼玉県内にも80代の組合士さんがいらっしゃって、とても刺激を受けています。仕事をしながらの勉強は大変だと思いますが、組合で働く以上は組合士の資格は取るべきだと思っています。勉強時間の確保を工夫して、一人でも多くの方に合格してほしいですね」

今後も組合士として、そして専務理事としての活躍が期待される。

「実は、こう見えて『男っぽい』と言われてます(笑) 厳しいことも言いますが、これからも組合に貢献したいと思っています。大宮支部は、県内の支部の中でも保険加入率や共同購入の金額などはいつもトップクラスで、青年部の活動も活発です。少子高齢化が進んで後継者難が問題になっていますが、私たちの組合はそうした悩みは少ないようです。将来性のある組合ですので、私もがんばっていきます」

これからは、浦野専務理事の背中を見て育つ組合士も増えそうだ。